

開講年度	令和2年度	開講期間	前期
科目名	統計学		
担当教員	東 秀孝		
学年	3年	学科	昼間部 作業・理学
単位数	2単位	時間数	30時間
学習目標	統計学とは、集団の特性を探る学問であります。物事を合理的に考えたり、医療研究を理解する為にも必要であります。統計学の基礎的な概念や考え方を理解していきます。		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. データの形</li> <li>2. データの整理</li> <li>3. データの代表値</li> <li>4. データの散らばり</li> <li>5. 分散と標準偏差</li> <li>6. データの相関</li> <li>7. 確率</li> <li>8. 確率分布</li> <li>9. 統計的推理</li> <li>10. 2群の比較、カイ2乗検定</li> <li>11. 脳活性化リハビリテーション②</li> <li>12. 回帰分析、分散分析</li> <li>13. エクセルを使用して演習問題</li> <li>14. エクセルを使用して演習問題</li> <li>15. エクセルを使用して演習問題</li> </ol>		
教科書	使用しない		
参考書	資料		
評価方法	出席状況、レポート提出、授業態度、筆記試験		
備考			

開講年度	令和2年度	開講期間	前期
科目名	作業療法評価学Ⅲ		
担当教員	塚本 和子		
学年	3年	学科	作業
単位数	1単位	時間数	30時間
学習目標	臨床体験実習Ⅱの評価のまとめを振り返り、修正する。 臨床評価実習に向け、臨床に適した評価法の選択と考察が行えるよう学習する。		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. 臨床体験実習Ⅱの症例検討①</li> <li>3. 臨床体験実習Ⅱの症例検討②</li> <li>4. 臨床体験実習Ⅱの症例発表①</li> <li>5. 臨床体験実習Ⅱの症例発表②</li> <li>6. 臨床体験実習Ⅱの症例発表③</li> <li>7. 臨床体験実習Ⅱの症例発表④</li> <li>8. 臨床体験実習Ⅱの症例発表⑤</li> <li>9. 生活行為向上マネジメント①</li> <li>10. 生活行為向上マネジメント②</li> <li>11. 脳活性化リハビリテーション②</li> <li>12. 生活行為向上マネジメント④</li> <li>13. 模擬症例グループ検討</li> <li>14. 模擬症例グループ検討</li> <li>15. 模擬症例グループ発表</li> </ol>		
教科書	『標準作業療法学 専門分野 作業療法評価学』【監】岩崎テル子 他（医学書院） 『PT・OTビジュアルテキスト リハビリテーション基礎評価学』 【編】潮見泰藏・下田信明（羊土社） 『標準作業療法学 専門分野 身体機能作業療法学』【編】岩崎テル子（医学書院） 『標準作業療法学 専門分野 高次脳機能作業療法学』【著】能登真一（医学書院）		
参考書	随時		
評価方法	出席状況、授業態度、課題提出、発表等総合的に判定		
備考			

開講年度	令和2年度	開講期間	通年
科目名	脳血管障害作業療法Ⅱ		
担当教員	嶋田 ひかる		
学年	3年	学科	作業
単位数	2単位	時間数	60(30)時間
学習目標	脳血管障害を中心に、中枢疾患についてクライアントの作業療法の実際を学ぶ。評価及び治療の一連の流れを学び、日常生活活動の治療法について学ぶ。		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 脳血管障害の作業療法:オリエンテーション</li> <li>2. 脳血管障害の作業療法:前頭前野</li> <li>3. 脳血管障害の作業療法:前頭前野</li> <li>4. 脳血管障害の作業療法:遂行機能</li> <li>5. 脳血管障害の作業療法:記憶</li> <li>6. 脳血管障害の作業療法:失行</li> <li>7. 脳血管障害の作業療法:半側無視</li> <li>8. 脳血管障害の作業療法:注意</li> <li>9. 脳血管障害の作業療法:失語</li> <li>10. 脳血管障害の作業療法:失認</li> <li>11. 脳活性化リハビリテーション②</li> <li>12. 脳血管障害の作業療法:評価・治療</li> <li>13. 脳血管障害の作業療法:評価・治療</li> <li>14. 国家試験対策</li> <li>15. 国家試験対策</li> </ol>		
教科書	『標準作業療法学 専門分野 身体機能作業療法学』【編】岩崎テル子 (医学書院) 『標準作業療法学 専門分野 高次脳機能作業療法学』【著】能登真一 (医学書院)		
参考書	随時紹介		
評価方法	出席状況、授業態度、試験		
備考			

開講年度	令和2年度	開講期間	前期
科目名	運動器障害作業療法Ⅱ		
担当教員	濱藤 春暉		
学年	3年	学科	作業
単位数	1単位	時間数	30時間
学習目標	運動器疾患を治療するにあたり、骨・関節・筋の知識は必須である。 各疾患の評価および治療を学ぶことで、臨床実習を円滑に行えるだけの知識を獲得する。		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション、屈筋腱損傷の作業療法①</li> <li>2. 屈筋腱損傷の作業療法②</li> <li>3. 関節リウマチの作業療法①</li> <li>4. 関節リウマチの作業療法②</li> <li>5. 関節リウマチの作業療法③</li> <li>6. 頸髄損傷の作業療法①</li> <li>7. 頸髄損傷の作業療法②</li> <li>8. 頸髄損傷の作業療法③</li> <li>9. 椎体圧迫骨折の作業療法</li> <li>10. 大腿骨頸部骨折の作業療法</li> <li>11. 脳活性化リハビリテーション②</li> <li>12. 切断と離断の作業療法①</li> <li>13. 切断と離断の作業療法②</li> <li>14. 熱傷の作業療法①</li> <li>15. 熱傷の作業療法②、まとめ</li> </ol>		
教科書	『ビジュアル実践リハ 整形外科リハビリテーション』【監】神野哲也（羊土社）		
参考書	随時		
評価方法	出席状況、授業態度、試験		
備考			

開講年度	令和2年度	開講期間	前期
科目名	発達障害作業療法Ⅱ		
担当教員	中野 和代		
学年	3年	学科	作業
単位数	1単位	時間数	30時間
学習目標	障害を持つ子どもの生活上の困難、適応上の困難を改善することを目指す作業療法の実践について学習する。 さまざまな発達上の問題に関して、発達障害領域の評価と治療の概要を学び、その知識を臨床での実践に生かす力を身につける。		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. 子どもの発達と作業療法(1)</li> <li>3. 子どもの発達と作業療法(2)</li> <li>4. 子どもの発達と作業療法(3)</li> <li>5. 感覚統合機能障害の評価と治療(1)</li> <li>6. 感覚統合機能障害の評価と治療(2)</li> <li>7. 感覚統合機能障害の評価と治療(3)</li> <li>8. 知的障害の評価と治療(1)</li> <li>9. 知的障害の評価と治療(2)</li> <li>10. デュシェンヌ型筋ジストロフィーの評価と治療(1)</li> <li>11. 脳活性化リハビリテーション②</li> <li>12. 摂食・嚥下障害に対する評価と治療(1)</li> <li>13. 摂食・嚥下障害に対する評価と治療(2)</li> <li>14. 社会問題</li> <li>15. まとめと国家試験対策</li> </ol>		
教科書	『発達障害作業療法学(作業療法学 ゴールド・マスター・テキスト 7)』 【編】神作 一実 (メジカルビュー社) 『写真で見る 乳児の運動発達 生後10日から12ヶ月まで』【著】Lois Bly (協同医書出版) 『シンプル理学療法学シリーズ 小児理学療法学テキスト』【著】田原弘幸、大城昌平 (南江堂)		
参考書	『発達障害と作業療法基礎編』【著】岩崎 清隆・岸本 光夫 (三輪書店) 『発達障害と作業療法実践編』【著】岩崎 清隆・岸本 光夫 (三輪書店)		
評価方法	課題学習への取り組み・期末試験・出席状況により総合的に評価する。		
備考	2年次の発達障害作業療法Ⅰの復習をして授業に臨もう。		

開講年度	令和2年度	開講期間	通年
科目名	神経筋障害作業療法		
担当教員	中野 和代		
学年	3年	学科	作業
単位数	2単位	時間数	60(30)時間
学習目標	我が国で難病として定められた特定疾患のうち、臨床でよく出会う疾患の症状、経過および作業療法的評価・治療についての基礎的事項を理解する。		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 難病総論</li> <li>2. パーキンソン病(1)</li> <li>3. パーキンソン病(2)</li> <li>4. 筋萎縮性側索硬化症(1)</li> <li>5. 筋萎縮性側索硬化症(2)</li> <li>6. 脊髄小脳変性症(1)</li> <li>7. 脊髄小脳変性症(2)</li> <li>8. 多発性硬化症</li> <li>9. ギランバレー症候群</li> <li>10. 重症筋無力症/プリオン病</li> <li>11. 脳活性化リハビリテーション②</li> <li>12. 全身性エリテマトーデス</li> <li>13. 筋ジストロフィー(1)</li> <li>14. 筋ジストロフィー(2)</li> <li>15. まとめと国家試験対策</li> </ol>		
教科書	『神経難病領域のリハビリテーション実践アプローチ』【監】小森哲夫(メジカルビュー社) 『病気がみえる〈vol.7〉脳・神経』【編】医療情報科学研究所(メディックメディア)		
参考書	『ベッドサイドの神経の診かた』【著】田崎義昭(南山堂) 『系統理学療法学 神経障害系理学療法学』【編】丸山仁司(医歯薬出版)		
評価方法	出席状況・課題学習への取り組み・期末試験により総合的に評価する。		
備考	前期は神経内科学について復習しながら疾患の理解を深めよう。後期は疾患別リハビリテーションの実際とケーススタディについて取り上げるため、前期で疾患の基礎的知識を身につけておくこと。		

開講年度	令和2年度	開講期間	通年
科目名	内部障害作業療法		
担当教員	濱藤 春暉		
学年	3年	学科	作業
単位数	2単位	時間数	60(30)時間
学習目標	<p>主な内部障害の基礎とリハビリテーションを概説する。 特に臨床現場で遭遇する呼吸・循環・代謝障害に限定して通年で講義を展開する。内部障害の病態・治療・予後などについて理解し、臨床場面でのリハビリテーションの方針やリスク管理を学習する。最終的に動作方法の工夫や指導、環境調整などを行い、どうすれば生活の再構築ができるのかを学び、自ら思考できるようにする。</p>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 呼吸器系の構造と機能①</li> <li>2. 呼吸器系の構造と機能②</li> <li>3. 呼吸器系の構造と機能③</li> <li>4. 呼吸機能の評価(視診・触診)</li> <li>5. 呼吸機能の評価(打診・聴診)</li> <li>6. 呼吸機能の評価(呼吸困難感・運動耐容能)</li> <li>7. 画像診断(X線・CT)</li> <li>8. 呼吸器疾患①</li> <li>9. 呼吸器疾患②</li> <li>10. 呼吸器疾患③</li> <li>11. 脳活性化リハビリテーション②</li> <li>12. 呼吸器リハビリテーション②</li> <li>13. 呼吸器リハビリテーション③</li> <li>14. 吸引の基礎知識</li> <li>15. 吸引(演習)、国家試験対策</li> </ol>		
教科書	『ビジュアル実践リハ 呼吸・心臓リハビリテーション』【監】居村茂幸 (羊土社)		
参考書	随時		
評価方法	試験(前期試験と後期試験の合算で判定)、出席状況、授業態度		
備考			

開講年度	令和2年度	開講期間	通年
科目名	精神障害作業療法Ⅱ		
担当教員	門原 沙紀		
学年	3年	学科	作業
単位数	2単位	時間数	60(30)時間
学習目標	精神科作業療法治療学の基礎となる治療構造について学ぶ。 また、疾患別作業療法として統合失調症の病理と成因、行動の特徴、治療構造を理解する。		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 治療過程と治療構造</li> <li>2. 治療的態度、関わり方</li> <li>3. 作業活動①</li> <li>4. 作業活動②</li> <li>5. 作業活動③</li> <li>6. 作業活動④</li> <li>7. 作業活動⑤</li> <li>8. 集団</li> <li>9. 時間、頻度、場所</li> <li>10. 症状別精神科作業療法①</li> <li>11. 脳活性化リハビリテーション②</li> <li>12. 疾患別作業療法統合失調症①</li> <li>13. 疾患別作業療法統合失調症②</li> <li>14. 疾患別作業療法統合失調症③</li> <li>15. 疾患別作業療法統合失調症④</li> </ol>		
教科書	『はじめての精神科作業療法』【著】山口芳文・渡辺雅幸（中外医学社） 『標準精神医学』【著】野村総一郎（医学書院）		
参考書			
評価方法	レポート、授業内小テスト		
備考			



開講年度	令和2年度	開講期間	通年
科目名	高齢期障害作業療法		
担当教員	塚本 和子		
学年	3年	学科	作業
単位数	2単位	時間数	60(30)時間
学習目標	高齢期障害の理解、特に認知症について理解を深め、評価・治療を学ぶ。		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. 高齢期障害について①</li> <li>3. 高齢期障害について②</li> <li>4. 高齢期障害について③</li> <li>5. 認知症の基礎知識①</li> <li>6. 認知症の基礎知識②</li> <li>7. アルツハイマー病の症状と経過①</li> <li>8. アルツハイマー病の症状と経過②</li> <li>9. 脳血管性認知症の症状と経過</li> <li>10. 脳活性化リハビリテーション①</li> <li>11. 脳活性化リハビリテーション②</li> <li>12. 脳活性化リハビリテーション③</li> <li>13. 認知症の評価・診断・治療①</li> <li>14. 認知症の評価・診断・治療②</li> <li>15. 認知症の評価・診断・治療③</li> </ol>		
教科書	『認知症の正しい理解と包括的医療・ケアのポイント』【著】山口晴保（共同医書出版）		
参考書	『標準作業療法学 専門分野 作業療法評価学』【監】岩崎テル子 他（医学書院）		
評価方法	出席状況・授業態度・筆記試験		
備考			

開講年度	令和2年度	開講期間	通年
科目名	日常生活活動学		
担当教員	滝川 忠喜		
学年	3年	学科	作業
単位数	2単位	時間数	60(30)時間
学習目標	ADLの基本的知識の整理を通して、具体的な評価・支援方法などについて理解を深めることを目標としている。		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. 日常生活活動の概念</li> <li>3. 日常生活活動の意義と範囲</li> <li>4. 生活関連活動</li> <li>5. 国際生活機能分類</li> <li>6. 日常生活活動の評価</li> <li>7. 自助具</li> <li>8. 自助具選定</li> <li>9. 自助具作成</li> <li>10. 支援機器と住環境1</li> <li>11. 脳活性化リハビリテーション②</li> <li>12. 支援機器と住環境3</li> <li>13. コミュニケーション1</li> <li>14. コミュニケーション2</li> <li>15. リハビリテーション計画の立案練習 国家試験対策</li> </ol>		
教科書	『新版 日常生活活動(ADL) 評価と支援の実際』【著】伊藤利之・江藤文夫(医歯薬出版) 『作業療法学全書 第10巻 福祉用具の使い方・住環境整備』 【著】木之瀬隆(協同医書出版)		
参考書	『新版 日常生活活動(ADL) 評価と支援の実際』【著】伊藤利之・江藤文夫(医歯薬出版) 『作業療法学全書 第10巻 福祉用具の使い方・住環境整備』 【著】木之瀬隆(協同医書出版)		
評価方法	出席状況、授業態度、試験		
備考			

開講年度	令和2年度	開講期間	通年
科目名	臨床実習前教育学Ⅱ		
担当教員	滝川 忠喜		
学年	3年	学科	作業
単位数	2単位	時間数	120(30)時間
学習目標	<p>目標:臨床評価実習が円滑に行うことができる。  概要:2年次の学習した評価学の復習の場とし、また実習を想定し、実技評価を行う。</p>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 臨地実習必要なマナー・常識・バイタルチェック・コミュニケーション技法</li> <li>2. 臨床における関節可動域測定①</li> <li>3. 臨床における関節可動域測定②</li> <li>4. 臨床における関節可動域測定③</li> <li>5. 片麻痺機能検査・知覚検査・腱反射①</li> <li>6. 片麻痺機能検査・知覚検査・腱反射②</li> <li>7. 臨床能力試験①</li> <li>8. 臨床能力試験②</li> <li>9. 面接・観察技法①</li> <li>10. 面接・観察技法②</li> <li>11. 脳活性化リハビリテーション②</li> <li>12. 高次脳機能検査測定①</li> <li>13. 高次脳機能検査測定②</li> <li>14. 高次脳機能検査測定③</li> <li>15. 臨床能力試験③</li> <li>16. 臨床能力試験④</li> </ol>		
教科書	プリント配布		
参考書	随時紹介		
評価方法	実技試験を2回実施し、平均した点を評点とする。		
備考			

開講年度	令和2年度	開講期間	通年
科目名	臨床実習前教育学Ⅱ		
担当教員	濱藤 春暉		
学年	3年	学科	作業
単位数	2単位	時間数	120(30)時間
学習目標	<p>目標:臨床評価実習が円滑に行うことができる。  概要:臨床実習前教育学の復習を行う。</p>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 臨地実習必要なマナー・常識・バイタルチェック・コミュニケーション技法</li> <li>2. 臨床における関節可動域測定①</li> <li>3. 臨床における関節可動域測定②</li> <li>4. 臨床における関節可動域測定③</li> <li>5. 片麻痺機能検査・知覚検査・腱反射①</li> <li>6. 片麻痺機能検査・知覚検査・腱反射②</li> <li>7. 臨床能力試験①</li> <li>8. 臨床能力試験②</li> <li>9. 面接・観察技法①</li> <li>10. 面接・観察技法②</li> <li>11. 脳活性化リハビリテーション②</li> <li>12. 高次脳機能検査測定①</li> <li>13. 高次脳機能検査測定②</li> <li>14. 高次脳機能検査測定③</li> <li>15. 臨床能力試験③</li> <li>16. 臨床能力試験④</li> </ol>		
教科書	臨床実習前教育学で配布されたプリント		
参考書	随時		
評価方法	なし		
備考			

開講年度	令和2年度	開講期間	通年
科目名	地域作業療法学 I		
担当教員	中野 和代		
学年	3年	学科	作業
単位数	2単位	時間数	60(30)時間
学習目標	地域におけるリハビリテーションの概念や機能、作業療法士業務と役割、他職種の業務と連携の重要性、基本的な法制度について学ぶ。		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. 地域リハビリテーションとは</li> <li>3. 我が国における地域作業療法</li> <li>4. 地域作業療法の展開(1)</li> <li>5. 地域作業療法の展開(2)</li> <li>6. 地域作業療法を支える制度(1)</li> <li>7. 地域作業療法を支える制度(2)</li> <li>8. 社会生活支援・連携</li> <li>9. 地域作業療法の実践事例(1)</li> <li>10. 地域作業療法の実践事例(2)</li> <li>11. 脳活性化リハビリテーション②</li> <li>12. 地域作業療法の実践事例(4)</li> <li>13. 地域作業療法の実践事例(5)</li> <li>14. 地域作業療法の実践事例(6)</li> <li>15. まとめと国家試験対策</li> </ol>		
教科書	『標準作業療法学 専門分野 地域作業療法学』【編】小野恵子（医学書院）		
参考書	『地域作業療法学・老年期作業療法学（作業療法学 ゴールド・マスター・テキスト 9）』 【編】田村 孝司（メジカルビュー社）		
評価方法	出席状況・課題学習への取り組み・期末試験により総合的に評価する。		
備考	我が国の制度や社会情勢を知るために、日々報道されるニュースに関心を向けよう。		

開講年度	令和2年度	開講期間	通年
科目名	地域作業療法学Ⅱ		
担当教員	中野 和代		
学年	3年	学科	作業
単位数	4単位	時間数	120(60)時間
学習目標	地域生活を営む対象者の課題を知り、作業療法士が行う支援と地域での役割について座学と実習の両面から学ぶ。		
授業計画	1. 前期オリエンテーション 2. 地域作業療法に必要な知識と技術(1) 3. 地域作業療法に必要な知識と技術(2) 4. 地域作業療法に必要な知識と技術(3) 5. 地域作業療法に必要な知識と技術(4) 6. 地域作業療法に必要な知識と技術(5) 7. 地域作業療法に必要な知識と技術(6) 8. (1)～(6)のまとめ 9. 症例検討(1) 10. 症例検討(2) 11. 脳活性化リハビリテーション② 12. 症例検討(4) 13. 症例検討(5) 14. 症例検討(6) 15. 症例検討(7) 16. 症例検討(8) 17. 症例検討(9) 18. 症例検討(10) 19. 症例検討(11) 20. 症例検討(12) 21. 症例検討(13) 22. 症例検討(14) 23. 症例検討(15) 24. 症例検討(16) 25. 症例検討(17) 26. 症例検討(18) 27. 症例検討(19) 28. 症例検討(20) 29. まとめと国家試験対策(1) 30. まとめと国家試験対策(2)		
教科書	『標準作業療法学 専門分野 地域作業療法学』【編】小野恵子 (医学書院)		
参考書	『地域作業療法学・老年期作業療法学(作業療法学 ゴールド・マスター・テキスト9)』 【編】田村 孝司 (メジカルビュー社)		
評価方法	課題提出・症例報告・実習への取り組み姿勢・出席状況を総合的に評価する。		
備考	座学と実習を通じて地域作業療法に必要な疾患の知識、評価、介入の技術およびリスク管理の理解を深める総合的科目である。履修済み科目の教科書・ノートなどを復習して臨むこと。		

開講年度	令和2年度	開講期間	通年																														
科目名	作業療法国家試験演習																																
担当教員	滝川 忠喜																																
学年	3年	学科	作業																														
単位数	4単位	時間数	120(60)時間																														
学習目標	国家試験問題の解説ノートづくりを通して、臨床心理学に関する理解を深める。																																
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>1. 防衛機制①</td> <td>16. オリエンテーション 運動器障害作業療法研究法(関節リウマチ)</td> </tr> <tr> <td>2. 防衛機制②</td> <td>17. 運動器障害作業療法研究法(骨折)</td> </tr> <tr> <td>3. 防衛機制③</td> <td>18. 運動器障害作業療法研究法(末梢神経損傷)</td> </tr> <tr> <td>4. 心理療法①</td> <td>19. 運動器障害作業療法研究法(筋・腱損傷)</td> </tr> <tr> <td>5. 心理療法②</td> <td>20. 運動器障害作業療法研究法(熱傷)</td> </tr> <tr> <td>6. 心理療法③</td> <td>21. 運動器障害作業療法研究法(切断)</td> </tr> <tr> <td>7. 心理療法④</td> <td>22. 運動器障害作業療法研究法(頸髄損傷)</td> </tr> <tr> <td>8. 心理療法⑤</td> <td>23. 運動器障害作業療法研究法(CRPS)</td> </tr> <tr> <td>9. 心理療法⑥</td> <td>24. 内部障害作業療法研究法(閉塞性・拘束性肺疾患)</td> </tr> <tr> <td>10. 心理検査法①</td> <td>25. 内部障害作業療法研究法(肺気腫)</td> </tr> <tr> <td>11. 脳活性化リハビリテーション②</td> <td>26. 内部障害作業療法研究法(睡眠時無呼吸症候群)</td> </tr> <tr> <td>12. 障害受容</td> <td>27. 内部障害作業療法研究法(急性心筋梗塞・狭心症)</td> </tr> <tr> <td>13. 学習理論①</td> <td>28. 内部障害作業療法研究法(心不全)</td> </tr> <tr> <td>14. 学習理論②</td> <td>29. 内部障害作業療法研究法 (閉塞性動脈硬化症・深部静脈血栓症)</td> </tr> <tr> <td>15. 心理の発達</td> <td>30. 内部障害作業療法研究法(糖尿病)</td> </tr> </table>			1. 防衛機制①	16. オリエンテーション 運動器障害作業療法研究法(関節リウマチ)	2. 防衛機制②	17. 運動器障害作業療法研究法(骨折)	3. 防衛機制③	18. 運動器障害作業療法研究法(末梢神経損傷)	4. 心理療法①	19. 運動器障害作業療法研究法(筋・腱損傷)	5. 心理療法②	20. 運動器障害作業療法研究法(熱傷)	6. 心理療法③	21. 運動器障害作業療法研究法(切断)	7. 心理療法④	22. 運動器障害作業療法研究法(頸髄損傷)	8. 心理療法⑤	23. 運動器障害作業療法研究法(CRPS)	9. 心理療法⑥	24. 内部障害作業療法研究法(閉塞性・拘束性肺疾患)	10. 心理検査法①	25. 内部障害作業療法研究法(肺気腫)	11. 脳活性化リハビリテーション②	26. 内部障害作業療法研究法(睡眠時無呼吸症候群)	12. 障害受容	27. 内部障害作業療法研究法(急性心筋梗塞・狭心症)	13. 学習理論①	28. 内部障害作業療法研究法(心不全)	14. 学習理論②	29. 内部障害作業療法研究法 (閉塞性動脈硬化症・深部静脈血栓症)	15. 心理の発達	30. 内部障害作業療法研究法(糖尿病)
1. 防衛機制①	16. オリエンテーション 運動器障害作業療法研究法(関節リウマチ)																																
2. 防衛機制②	17. 運動器障害作業療法研究法(骨折)																																
3. 防衛機制③	18. 運動器障害作業療法研究法(末梢神経損傷)																																
4. 心理療法①	19. 運動器障害作業療法研究法(筋・腱損傷)																																
5. 心理療法②	20. 運動器障害作業療法研究法(熱傷)																																
6. 心理療法③	21. 運動器障害作業療法研究法(切断)																																
7. 心理療法④	22. 運動器障害作業療法研究法(頸髄損傷)																																
8. 心理療法⑤	23. 運動器障害作業療法研究法(CRPS)																																
9. 心理療法⑥	24. 内部障害作業療法研究法(閉塞性・拘束性肺疾患)																																
10. 心理検査法①	25. 内部障害作業療法研究法(肺気腫)																																
11. 脳活性化リハビリテーション②	26. 内部障害作業療法研究法(睡眠時無呼吸症候群)																																
12. 障害受容	27. 内部障害作業療法研究法(急性心筋梗塞・狭心症)																																
13. 学習理論①	28. 内部障害作業療法研究法(心不全)																																
14. 学習理論②	29. 内部障害作業療法研究法 (閉塞性動脈硬化症・深部静脈血栓症)																																
15. 心理の発達	30. 内部障害作業療法研究法(糖尿病)																																
教科書	配布資料																																
参考書	過去問問題集																																
評価方法	出席状況、授業態度、課題提出、試験																																
備考																																	

開講年度	令和2年度	開講期間	前期
科目名	臨床評価実習(短期実習)		
担当教員	臨床実習指導者 教員		
学年	3年	学科	作業
単位数	3単位	時間数	135時間
学習目標	<p>学生が将来、作業療法士としての役割と責任が果たせるように、臨床現場での対象者やリハスタッフ、その他の医療等関係者との関係を形成する重要な科目の一つであり、実習までに習得した知識・技術の実践の場として、さらに障がいを実体験する機会でもある。</p> <p>また作業療法士が行う治療を立案する上で重要な検査・測定等、評価のプロセスを理解する重要な機会でもある。</p>		
授業計画	<p>実習期間</p> <p>1期 令和2年8月24日(月) ～ 令和2年9月12日(土)</p> <p>2期 令和2年8月31日(月) ～ 令和2年9月19日(土)</p> <p>* 1期または2期のどちらかの期間</p>		
教科書	実習中は、これまで購入した教科書、参考書籍、講義資料等が必要である。		
参考書	実習指導者、教員等に必要な参考書籍、参考文献を確認すること。		
評価方法	実習指導者の評点、学内での報告、実習中のレポート、出席状況等を考慮し、評価する。		
備考			